

11月号

2015年

月	火	水	木	金	土	日
10/26 	10/27	10/28	10/29 	10/30 	10/31 ◇第11回 SST 年中セミナー	1 
2 	3	4	5	6	7 	8 
9 	10	11	12	13	14 ◇第12回 SST 年中セミナー	15 
16 	17	18	19	20	21 	22 
23/30 	24	25	26	27	28	29 地球応援団！COSMOS Act.6 “TREASURE HUNTER”

★10月29日(木)・30日(金)のSST・SSK・作文倶楽部の通常授業はお休みです。



は、休塾日です。

お問い合わせ

月	火	水	木	金	土	日
10/26 	10/27	10/28	10/29 	10/30 	10/31 ★キッズラボ 月2回クラス ●作文倶楽部 月2回クラス	1 
2 	3	4	5	6	7 ★キッズラボ 月2回クラス ◆SST年長 土曜日クラス ●作文倶楽部 月2回クラス	8 ☆キッズラボ 月1回クラス
9 	10	11	12	13	14 ◆SST年長 土曜日クラス	15 
16 	17	18	19	20	21 ☆キッズラボ 月1回クラス ◆SST年長 土曜日クラス	22 
23/30 	24	25	26	27	28 地球応援団！COSMOS Act.6 “TREASURE HUNTER”	29

★10月29日(木)・30日(金)のSST・SSK・作文倶楽部・Leptonの通常授業はお休みです。

★10月27日(火)から30日(金)、11月24日(火)から11月29日(日)までのキッズラボの通常授業はお休みです。



は、休塾日です。

お問い合わせ

11月のご案内

冬期特別講座のご案内

2015年もあと2ヶ月となり、冬休みも迫ってきました。今年も冬のシーガルスクールは、SSKウィンタースクール、キッズラボクリスマスセミナーなど様々な講座を企画しています。シーガルスクールの特別講座で、新学年目の今だからこそ成長に磨きをかけてみませんか？

☆冬期特別講座：

- ・SSK・作文倶楽部ウィンタースクール（年長～小3対象）
- ・キッズラボクリスマスセミナー（小1～小6対象）
低学年「ミラーくるくるワールド ～ハーフミラーで光の性質～」
高学年「ビュー〜ンと吸い込め！ ～サイクロン掃除機のナゾ～」

☆詳細は11月中旬より配布いたします案内をご覧ください。

☆スクール生以外のお友達も一緒に参加していただけますので、お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

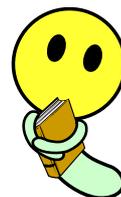


シーガル読書マラソン 2015 秋大会

10月6日にスタートした『シーガル読書マラソン 2015 秋大会』。シーガルスクールのスタッフが選んだ『おすすめBOOK』を2ヶ月間で8冊読破することを目標にしています。また、ただ読むだけでなく、その『おすすめBOOK』の感想カードを書くことにも挑戦。自分が読んで面白かったところや、みんなに伝えたいことを文章にし、スクールに掲示していきます。上手に書けた感想カードには、ポイントがつき、そのポイントをクラスみんなで集め、シーガルナンバー1クラスを目指します。

なかなか一人で進んで本を手にとらない子や、じっくり本と向き合えない子も、この読書マラソンが、読書を楽しむ機会となることでしょう。

※期間中は『おすすめBOOK』1冊とその他の本1冊の計2冊が貸し出し可能です。



スクールからのおねがい

シーガルスクールでは、平日(火～金)：17:00～19:00 は授業中のため、電話に出ることが出来ません。当日の欠席・遅刻連絡などは、17:00までにご連絡いただけますよう、お願いいたします。



言葉に出会う そのときに

日に日に空気が澄み渡り、秋の深まりを感じる季節となりました。シーガルス쿨のSSKの3年生では、毎年10・11月の2ヵ月をかけて、『泣いた赤おに』という物語に取り組みます。浜田廣介によって今から80年ほど前に作られたこの物語は、時代を超え多くの人々に読み継がれている名作です。ただ、80年ほど前の文章は子どもたちには難しく、今では現代語訳されたものが広まっています。

しかしSSKでは、現代語訳された読みやすいものではなく、あえて原文を読むことに挑戦しています。聞いたこともない言い回しや、使い慣れない慣用句に苦戦する子どもたち。たとえば、物語にはこのような一節があります。

家の中から、おには、だまって、二人の話を聞いていました。ちょっと入れば、ぞうさなく、入れる戸口を入ろうともせず、ひまどっているのを見ると、歯がゆくて、おには、一人で、いらいらしました。二人は、こっそり首をのぼして、戸口の中をのぞいたらしく思われました。

「なんだか、ひっそりしているよ。」

「気味が、悪いな。」

「さては、だまして、とって食うつもりじゃないかな。」

「なあるほど、あぶない。あぶない。」

二人のきこりは、しりごみを始めたらしく見えました。赤おには、耳をすましていましたが、こう言われると、くやしくなって、むっとしながら言いました。

「とんでもないぞ。だれが、だまして、食うものか。ばかにするない。」

『ぞうさなく』『ひまどっている』『歯がゆくて』『しりごみ』…たった数行のこの一節の中には子どもたちの知らない言葉が溢れています。ここで知らない言葉をスタッフが説明することは簡単ですが、SSKでは子どもたちに自ら発見してもらいます。子どもたちが自分で大きな辞書を持ち出して、1つずつ辞書を引いていくと、

「なるほど！そういう意味か！」

「こうやって換えると意味が分かる！」

など、たくさんの発見がそこには待っています。そして、辞書を引いた後に、もう一度この文章を読んでみると、前よりもずっと頭の中に言葉が溶け込んでいくようです。

子どもたちは、日々新しい日本語に出会っています。そのときに言葉との出会いをないがしろにしてしまえば、せっかく出会った言葉たちがその子の頭をすり抜けてしまうのではないのでしょうか。一つ一つの言葉との出会いに立ち止まり、「どういう意味なんだろう？」「どういう漢字を使うのだろう？」と疑問に思い、辞書を引いて理解することで、その言葉は子ども自身の語彙の1つとなっていきます。私たち大人は、子どもの語彙を無理に増やそうとするのではなく、子どもたちが会話や文章の中で自然と言葉に出会えるようにし、出会った瞬間を大切にしていきたいものです。

